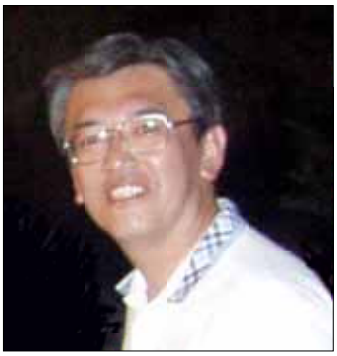
このバトンを渡しましたよ！

平和使節団に同行できて



千代田区平和使節団にこの度、議員派遣として同行することができました。大変貴重な体験をすることができました。本当にありがとうございました。

勇気ある行動を学びました

▼その１　ある一人のひめゆり学徒生

初日に行われたひめゆり学徒隊として陸軍病院第3外科に配属となった宮良ルリさんから直接お話を聴けたことは貴重な経験となりました。その話の内容はもう全てが衝撃的なものでした。私の今までの平和や戦争に対する認識の甘さに深く反省もしました。

その話の中に、いよいよ米兵が沖縄に上陸してきての戦争というときに、沖縄師範学校女子部、県立第一高等女学校の生徒が部長先生の住宅の前に集合させられた時の場面がでてきます。

「部長先生から『君たちは女性でありながら国のためにつくせるのだ。靖国神社の桜のもとでまた会おう』と話がありました。それは死んで靖国神社にまつられるということなんですよね部長先生は私たちに死ねということを言われたのと同じなんですよね。私はそれを聞いたとき非常に感動したんですです。そして部長先生はその場にいた全員と握手を交わしました。しかし、一人だけ握手を拒んだ生徒がいました。私は、その子はどうしてしまったのだろうと思いました。その当時は自分の命は惜しまない。潔いのが大和魂だという教育を受けてきました。そのような全体主義の中であっても彼女は握手を拒んだ。今になれば彼女の方が正しかったのです。私たちの仲間にそのような勇気ある人がいたことを誇りに思います。どんな時代になってもきちんと自分で判断できることは大事ですよ。彼女はよく本を読んでいました」と。

戦争体験を語る

戦争体験者 宮良ルリさん

▼その２　読谷村シムクガマでの兄弟

3日目には基地の町、読谷村役場にて職員の説明を聞きました。

村には二つのガマがあり（沖縄では鍾乳洞をガマという）、そこに住民が避難していましたが一つのチビチリガマは全員が自決、そしてあと一つのシムクガマは全員助かったとのことです。実はシムクガマにはハワイ移民からの帰省者である比嘉兄弟が避難していました。二人は米兵が降伏して出てきなさいとの呼びかけに応じるように皆を説得したのです。そんなことを言ったら逆に日本兵から殺されるかもしれなかったでしょう。これも先のひめゆりの生徒と同じく当時としては大変勇気の要ることであったと思います。二人のその勇気ある行動が全員を救ったのです。

★二つの例を通して、いかなる時代環境になろうとも何が正しいのかを判断できる知識、知恵（教育）を持つことと勇気ある行動が大事なことを学ぶことができました。戦争体験者のMさんはお話の最後に「このバトンを渡しましたよ！」と私たちに訴えました。戦争の悲惨さと愚かさ、そして二度と戦争を起こさない、起こさせない。平和のためのバトンです。私はこのバトンを受けた以上、国民ため、庶民のための正しい判断がいついかなるときでもできるよう生涯学ぶことと何よりも平和のための「勇気ある行動」を約束するものです。

読谷村の文化外交

文化外交を語る

読谷村職員の方の説明

読谷村の平和のための文化外交！

3日めには基地の町、読谷村を訪問しました。

まず読谷村役場を訪れましたが基地の中にあることにまずびっくりしました。そして玄関には左に「読谷村議会」、右には「読谷村役場」と大きく書かれた表札があり、さすが地方自治、住民自治が進んでいるといわれる読谷村だなと思いました。

さて、平和のための文化政策についてですが、発案も具体的に推進したのも前村長の山内氏とのことです。米軍の沖縄司令官婦人などアメリカ政府要人をまずヤムチンの里（登り窯による焼き物）などに案内し直接沖縄古来の文化に接してもらったそうです。これは基地問題を交渉する際には相互の歴史や文化を知り、その上で進めることが大事であるとの考えから行われているそうです。

そして山内氏は司令官に会い読谷村の文化論を述べ、またリンカーンやケネディの言葉を引用し真の民主主義とは何かを論じたそうです。それには司令官も文化、伝統芸能は否定できないと、基地の一部を沖縄古来の文化継承と新たな文化創造のために使うならと、基地の一部返還に成功したそうです。▼不発弾処理場だったところがヤチムンの里へ、また射撃練習場だったところは、はたおり工場にと変わったのです。さらに基地内の近い将来返還が予定されている地に村役場と文化センターを建設しました。▼返還地の平和利用はその他、伝統工芸センター、平和の森球場、残波岬いこいの広場などがあるそうです。

ヤチムンの里

陶芸家宮城氏

▼私は説明を聴いて、このようなことは国の利害を中心とした政治レベルでは決して解決できない。あくまで平和のための文化外交だったからできたのだと感心しました。ヤチムンの里を訪問し陶芸家の宮城氏の言葉も直接聴くことができました。本当の生きた文化がここにはあると。平和のための文化があると。

地元の方々との交流

住民の方々との交流もその日の晩、行われましたが教育と文化のまち千代田区から来てくれたと最高の盛り上がりになりました。◆今回の平和使節団に同行できて多くの貴重な体験をさせていただきました。これらは私の人生の財産であり、誓いともなりました。団員の方々を始め職員の方にも大変お世話になりました。本当にありがとうございました。